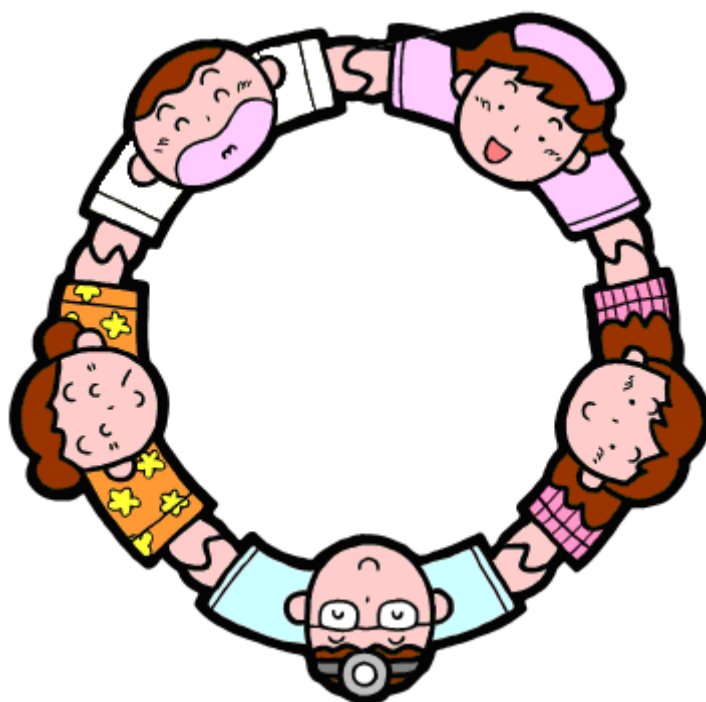


ビノレルビン療法の手引き



2020年2月 改訂版

国立がん研究センター中央病院
乳腺・腫瘍内科 薬剤部 看護部

はじめに

乳がんの進行を抑えるために、全身治療としてさまざまな抗がん剤が用いられますが、ビンレルビン療法はよく使われる抗がん剤治療のひとつです。

抗がん剤の副作用には個人差があって、全ての人に同じように起こるものではありません。また薬の種類によっても副作用の特徴が大きく違います。

この小冊子には、ビンレルビン療法によって起こりうる主な副作用とその対策についてまとめました。

ビンレルビン療法によって起こりうる主な副作用の種類、予防法、そしてそれが出現したときのひとまずの対処法を知ることにより、不安なく日常生活を送れるよう、これからビンレルビン療法を受けられる皆様にこの小冊子を役立てていただければ幸いです。

方 法

《注射に用いられる薬》：

以下の 2 本の注射剤を順番に投与します。

注射剤の内容

点滴時間

ビノレルビン注（抗がん剤）

約 3 分

生理食塩液（点滴管内の抗がん剤を洗い流す）

約 3 分

《注射方法》：

原則として、1 週間に 1 回注射を行います。採血結果や体調によっては 2～4 週目の注射をお休みする場合があります。

（定期的に採血を行い、検査データを確認致します。）

ビノレルビン療法																					
週	1							2							...						
日	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
注射	↓			休	薬			↓			休	薬			↓			休	薬		

↓：注射日を示します。

注射名：ビノレルビン注



無色透明

ビノレルビン注はキョウチクトウ科のニチニチソウの成分から半合成された化合物です。細胞が分裂する際に必要な細胞構成成分の一つである^{びしょうかん}微小管に作用し、微小管を構成しているチューブリンという蛋白質の^{じゅうごう}重合を阻害することにより、がん細胞の増殖を阻害したり、死滅させます。

ビノレルビン注は長い時間をかけて点滴するのではなく、短時間で注射します。注射部位に違和感や痛みを伴うようなことがありましたら、医師・看護師にお申し出下さい。



現在、他のくすりを服用されていて、薬の飲み合わせなど、気になることがございましたら医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。

副作用とその対策



ビノレルビン療法を行った際の副作用はすべての方に起こるわけではありません。その程度には個人差があります。

以下に主な副作用とその対策についてご紹介いたしますので参考にしてください。

白血球減少

白血球は、体内へ細菌が入り込まないように守っている血液成分の1つです。白血球が減少すると細菌に対する防御能が低下し、発熱や感染を起こす可能性があります。ビノレルビン療法では、治療を開始して3～4週間後に白血球が減少することがあります。

対策

白血球の減少の程度により、治療のスケジュールを調整することがあります。白血球が減っている時期には感染の予防と感染をおこした場合の適切な対応が重要です。

扁桃炎・虫歯・歯槽膿漏・膀胱炎・痔などがある方は、あらかじめ担当医にご相談ください。

感染の予防のために、あなた自身はもちろん、周囲の皆さんで手洗いやうがいをしましょう。

ビノレルビン療法の場合、10人に1人の割合で発熱する方がいます。38℃以上に発熱した場合、抗生物質の服用が必要になる可能性がありますので、担当医にご連絡下さい。



倦怠感

10人に7人の割合で、注射後に体が重く感じたり、だるさを感じたりすることがあります。

対策

疲れを感じる時には無理をせず、こまめに休息をとるなど、体を休ませましょう。また、倦怠感が強く症状がなかなか良くならない場合は担当医と治療スケジュールについて相談しましょう。



血管炎

ビノレルビン療法により、注射をした血管に痛みを感じたり、赤く腫れたりすることがあります。

対策

注射中に血管の痛みや違和感がありましたらすぐに医師・看護師にお申し出下さい。

血管炎が治療のたびにおこるようであれば腕の血管ではなく中心静脈という心臓に近い血管に注射用の管を埋め込み、注射を行うことも可能ですので担当医にご相談下さい。

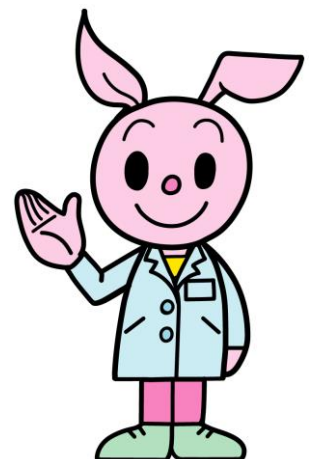
注射部位への皮膚障害

ビノレルビンは、注射の際のわずかな漏れでも皮膚障害を起こすことがあります。

対策

注射部位が赤く腫れたり、痛みを感じたりする場合には速やかに医療スタッフにお申し出下さい。

また、針を抜いた後にも注射部位を観察し、上記の症状があれば担当医にご連絡下さい。これらの症状に気付くことは早期の対応につながります。



吐き気

ビノレルビン療法により吐き気の症状がでることは比較的少ないと言われてはいますが、患者さんによっては吐き気が出たり、食欲が低下したりすることがあります。

対策

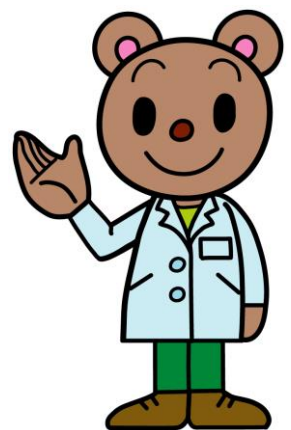
口の中を清潔にしたり、室内の換気を十分にしたりすることで予防することもできます。趣味を楽しみ、気を紛らわすこともときに効果的です。吐き気が現れた場合は、吐き気止めの薬を使いましょう。また、吐き気により他に服用しているお薬が飲みにくい場合には、ご相談下さい。

味覚障害・食欲不振

ビノレルビン療法中に治療前と比べて嗜好が変わる、味を感じにくくなるなどの味覚の変化がおこることがあります。

対策

食事がおいしく感じられないなどの味覚の変化や食欲の低下は、ビノレルビン療法中の一時的なもので治療が終了すれば回復します。食欲がないときには、無理をせず食べられるものを可能な範囲でバランスよく食べましょう。



便秘

ビノレルビン療法によって腸の動きが弱くなり、便がでにくくなる場合があります。

対策

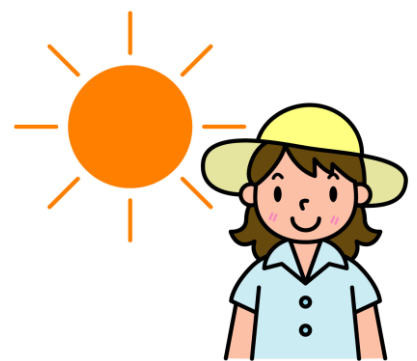
水分を十分にとり、繊維質の多い食べ物をとることも効果的ですが、便秘が長引く場合やおなかがはって苦しい場合は、下剤で排便の調節をしていきますので、担当医にご相談下さい。

脱毛

ビノレルビン療法により軽度の脱毛がおこる場合がありますが、頻度は比較的少ないといわれています。脱毛がおこったとしても、治療を終了すれば回復し始めます。

対策

髪の毛が回復してくるまでの間、医療用かつらやスカーフなどをご用意すると良いでしょう。シャンプーは、弱酸性シャンプーやベビーシャンプーなど刺激の少ないものを使用しましょう。そして外出の際は直射日光を避けるため帽子をかぶると良いでしょう。





悩んだり、不安になる前に、外見に関するご心配ごとがあれば、

アピアランス支援センターまでご相談ください。


※オレンジクローバーはアピアランス支援センターのシンボルマークです

末梢神経障害

ビノレルビン療法によって、頻度は高くありませんが、手足のしびれ（末梢神経障害）がでることがあります。

治療を終了すれば回復し始めます。

★MEMO★




© 監修 国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科

© 発行 国立がん研究センター中央病院

© 編集 薬剤部

© 編集協力 乳腺・腫瘍内科

看護部



使用イラストは MPC 刊「薬と予防イラスト集」より転載